

### 第 4 問

【解答】

問 1

借方科目	金額	貸方科目	金額
製品	6,120,000	仕掛品	6,120,000

問 2

借方科目	金額	貸方科目	金額
原価差異	311,600	仕掛品	311,600

問 3

290,000 円 ( 有利差異 ・ 不利差異 )
---------------------------

(有利差異・不利差異) のいずれかを○で囲みなさい。

問 4

予算差異	90,000 円 ( 有利差異 ・ 不利差異 )
能率差異	50,000 円 ( 有利差異 ・ 不利差異 )
操業度差異	150,000 円 ( 有利差異 ・ 不利差異 )

(有利差異・不利差異) のいずれかを○で囲みなさい。

【解説】

標準原価計算の仕訳と差異分析に関する基本的な問題である。

問 1

パーシャル・プランでは、仕掛品勘定の借方（当月投入）は実際原価で記入し、貸方の完成品と月末仕掛仕掛品は標準原価で記入する。なお、借方の月初仕掛品は（前月の月末仕掛品であるため）標準原価で記入する。

標準原価で計算した完成品原価は、6,120,000 円（=1,500 個×4,080 円）となり、製品勘定の借方と仕掛品勘定の貸方に記入する。

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.201～p.204 参照

問 2

原価差異は、仕掛品勘定の借方（実際原価）と貸方（標準原価）の差額として、次のように計算する。

$$\begin{array}{l} \text{標準原価} \\ 6,120,000 \text{ 円} \end{array} - \begin{array}{l} \text{実際原価合計額} \\ (729,600 \text{ 円} + 1,812,000 \text{ 円} + 3,890,000 \text{ 円}) \end{array} = -311,600 \text{ 円 (不利差異)}$$

不利（借方）差異は、原価差異勘定の借方と仕掛品勘定の貸方に記入する。

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.201～p.204 参照

問 3

製造間接費総差異は、標準製造間接費（加工費の当月投入数量×製品 1 単位当たりの標準製造間接費）と実際発生額の差額として、次のように計算する。

$$(1,500 \text{ 個} \times 2,400 \text{ 円}) - 3,890,000 \text{ 円} = -290,000 \text{ 円 (不利差異)}$$

**Point** 差異は、「標準原価－実際原価」で算定すると、その金額がプラスのとき有利、マイナスのとき不利となり、分かりやすい。

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.197～p.200 参照

問 4

製造間接費総差異を分析するために必要となる、①標準操業度（標準直接作業時間）、②変動費率および③固定費率をまず計算する。

- ① 標準操業度：  $1,500 \text{ 個} \times 0.6 \text{ 時間} = 900 \text{ 時間}$
- ② 変動費率：  $\frac{\text{月間正常直接作業時間}}{2,500,000 \text{ 円} \div 1,000 \text{ 時間}} = @2,500 \text{ 円}$
- ③ 固定費率：  $\frac{\text{月間正常直接作業時間}}{1,500,000 \text{ 円} \div 1,000 \text{ 時間}} = @1,500 \text{ 円}$

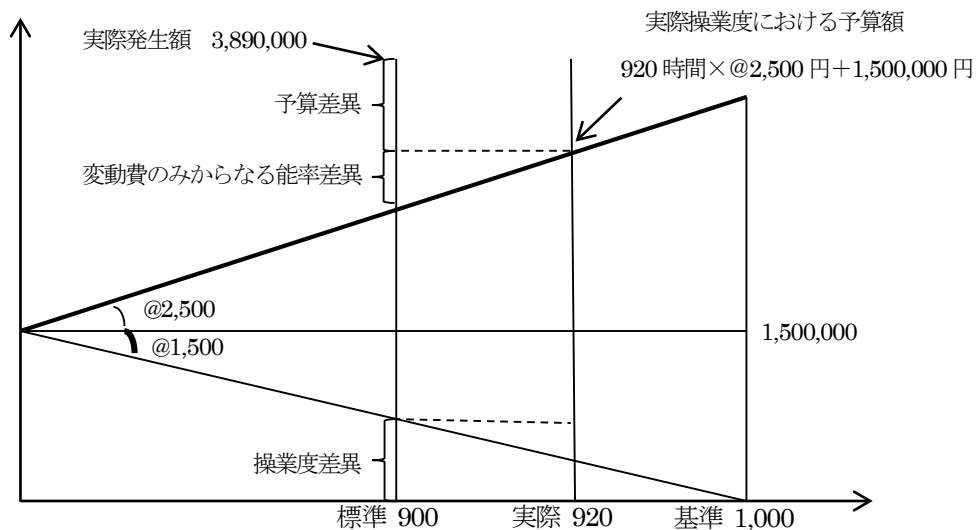
これにより、各差異は次のように算定できるが、以下のような図を描くことがより分かりやすい解き方である。

	実際操業度における製造間接費予算額	実際発生額	
予算差異：	$(920 \text{ 時間} \times @2,500 \text{ 円} + 1,500,000 \text{ 円})$	$- 3,890,000 \text{ 円}$	= -90,000 円 (不利差異)
能率差異：	$(900 \text{ 時間} - 920 \text{ 時間})$	$\times @2,500 \text{ 円}$	= -50,000 円 (不利差異)

1) 本問では能率差異を変動費のみから計算するように指示されているため、変動費率を乗じる。

	標準操業度 <sup>2)</sup>	基準(正常)操業	固定費率	
操業度差異：	$(900 \text{ 時間} - 1,000 \text{ 時間})$	$\times @1,500 \text{ 円}$		= -150,000 円 (不利差異)

2) 能率差異を変動費のみで計算する分析方法では、操業度差異は標準操業度と基準操業度の差に固定費率を乗じて算定する。



新版日商簿記テキスト工業簿記 p.197～p.200 参照

## 第 5 問

【解答】

第 1 工程月末仕掛品の原料費 =	60,000	円
第 1 工程月末仕掛品の加工費 =	60,000	円
第 2 工程月末仕掛品の前工程費 =	124,800	円
第 2 工程月末仕掛品の加工費 =	24,000	円
第 2 工程完成品総合原価 =	4,723,200	円

【解説】

仕損処理を含む工程別総合原価計算の問題である。

< 第 1 工程の計算 >

① 月末仕掛品原価の計算

生産データを原料費と加工費に分けて整理すると、次のとおりである。

原料費				加工費			
月初	200			月初	100 <sup>1)</sup>		
		完成	4,600			完成	4,600
		仕損	100			仕損	100 <sup>2)</sup>
当月	4,800	月末	300	当月	4,750	月末	150 <sup>3)</sup>

1) 200 個×0.5 2) 100 個×1.0 3) 300 個×0.5

原価投入額の配分方法は平均法であるから、月末仕掛品原価は月初仕掛品原価と当月製造費用の合計額から計算する。また、正常仕損の発生点が終点であるため、正常仕損費は完成品のみの負担となる。この場合、月末仕掛品原価の計算においては、当月投入数量から仕損数量を差し引かない。

これにより、月末仕掛品原価は、次のように計算する。

$$\text{原料費の月末仕掛品原価} : \frac{30,000\text{円} + 970,000\text{円}}{200\text{個} + 4,800\text{個}} \times 300\text{個} = 60,000\text{円}$$

$$\text{加工費の月末仕掛品原価} : \frac{40,000\text{円} + 1,900,000\text{円}}{100\text{個} + 4,750\text{個}} \times 150\text{個} = 60,000\text{円}$$

② 完成品総合原価の計算

原料費の完成品原価 : (30,000 円 + 970,000 円) - 60,000 円 = 940,000 円  
 加工費の完成品原価 : (40,000 円 + 1,900,000 円) - 60,000 円 = 1,880,000 円  
 完成品総合原価 2,820,000 円

<第 2 工程の計算>

① 月末仕掛品原価の計算

生産データを前工程費・原料費と加工費に分けて整理すると、次のとおりである。

前工程費・原料費		加工費	
月初	400	月初	200 <sup>1)</sup>
	完成 4,800		完成 4,800
当月	4,600	当月	4,700
	月末 200		月末 100 <sup>2)</sup>

1) 400 個×0.5      2) 200 個×0.5

第 1 工程と同様に、第 2 工程も原価投入額の配分方法は平均法ある。月末仕掛品原価は次のように計算する。

前工程費の月末仕掛品原価 :  $\frac{30,000\text{円} + 2,820,000\text{円}^1}{400\text{個} + 4,600\text{個}} \times 200\text{個} = 124,800\text{円}$

1) 第 1 工程の完成品総合原価

原料費の月末仕掛品原価 :  $\frac{40,000\text{円} + 560,000\text{円}}{400\text{個} + 4,600\text{個}} \times 200\text{個} = 24,000\text{円}$

加工費の月末仕掛品原価 :  $\frac{63,500\text{円} + 1,112,500\text{円}}{200\text{個} + 4,700\text{個}} \times 100\text{個} = 24,000\text{円}$

Point

ここでは、第 2 工程月末仕掛品のうち前工程費のみの計算が求められているため、前工程費と原料費は分けて計算する必要がある。

② 完成品総合原価の計算

前工程費の完成品原価 : (300,000 円 + 2,820,000 円) - 124,800 円 = 2,995,200 円  
 原料費の完成品原価 : (40,000 円 + 560,000 円) - 24,000 円 = 576,000 円  
 加工費の完成品原価 : (63,500 円 + 1,112,500 円) - 24,000 円 = 1,152,000 円  
 完成品総合原価 4,723,200 円

各解答の金額

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.117~p.120 参照

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.132~p.136 参照

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.165~p.169 参照